

平成31年3月25日

浜田市議会議長 川神裕司様

議員名 上野 茂



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成31年3月18日(月)～3月20日(水)
2. 視察先と内容
 - ① 宮崎県日南市
日南市役所「空き店舗対策事業について」
 - ② 宮崎県日南市飫肥町(おびちょう)
「飫肥食べ歩き町歩き事業について」
 - ③ 熊本県球磨郡あさぎり町
研修&交流会あさぎり町「リュウキンカの郷」
「空き家をリノベーションし、広域連携の法人化で自立に向けて稼ぐ、地域
コミュニティービジネスの取組について」
 - ④ 熊本県人吉市
農家レストラン「ひまわり亭」
3. 参加者 西田清久 道下文男 笹田 卓
川上幾雄 上野 茂
4. 調査経費 39,277円
5. 調査研究活動の概要 別紙



宮崎県日南市

日南市役所「空き店舗対策事業について」

かつて宮崎県南地区最大の商店街。空き店舗や空き地の増加、歩行者通行量や小売販売額の減少などの衰退が見られ、隣市への買い物客の流出による厳しい環境で市民の意識から商店街という存在が薄れてしまった。その油津商店街をたった3年で商店街再生！市民の熱量を生み出し、戦略的にまちを変えていく、宮崎県日南市「地域再生請負人」の仕掛けについて視察した。

寂しかったシャッター商店街に数々のベンチャー企業が進出するなど、行政と市民が一体となってまちづくりに大きく動き出していた日南市、いま一体何が起きているのか、まちに“うねり”を生み出す仕掛けについての話を市の職員から聞き現地の視察も行った。

- 立役者は、4年間という期限付きで外部から崎田恭平市長に選ばれた、木藤亮太（きとう・りょうた）さんと田鹿倫基（たじか・ともき）さん日南市に移住することが条件で、委託料はなんと「月給90万円」！彼らはまちづくりのプロ、市民の期待を一身に背負う「地域再生請負人」元気をなくした商店街に「4年間で20店舗を誘致すること」が任務
- 1年目 株式会社 油津応援団 「まちづくりの会社」45名以上の出資、資本金1,800万円、他にない公民連携を目指す。1年目、店舗誘致0件
- 2年目 地元の人が商店街を語り始める。若者が関わる土曜夜市、大学や高校との連携、2年目、店舗誘致2件
- 3年目 商売を続けてきた店主らの気持ちの変化、新たな来街目的が生まれた、IT関連企業の進出、大学生からの厳しい指摘、商店街の人々に火が着いた。3年目、店舗誘致15件
- 4年目 新規店舗誘致目標20店舗 実績29店舗（H29, 3月末現在）歩行者通行量2.5倍～3倍に

所感

今回で2度目の視察となった、以前は子育て支援センターの視察に行き、街の賑わいを作るために商店街の中に施設があり、中に入ると地元の杉の木を使った用具などで木のぬくもり香がいっぱいで子どもの賑やかな声が商店街に響き感動した。またその時市内にコンビニや大型店が少なく、商店街に賑わいを感じ今回の視察に至った。強いリーダーシップと行動力により、衰退した商店街を若者がチャレンジする新しいまちに生まれ変わった。ここの商店街へ行けば、やりたいことが実現する。わくわくするような空気感があり、市街地、中山間地域を問わず多くの課題を持つ浜田市においても大いに参考になると感じた。

日南市飫肥町（おびちょう）

「飫肥食べ歩き町歩き事業について」

平成21年4月スタートした飫肥城下町「食べあるき・町あるき」事業。観光客に九州の小京都「飫肥城下町」を散策しながら、あゆみちゃんマップについた5枚の引換券で、地元の美味しい食べものや手造りの商品などと引換をし、歴史資料館など7か所の由緒施設共通入館券付（1200円）で販売枚数25万人達成。最大の功績は、自主事業として始めた「食べあるき町あるき」により、観光客の回

遊に成功したこと。これにより店舗数も増え、地域に多大な経済効果をもたらした。飫肥城下町保存会と市の関係について平成 18 年～平成 23 年（5 年間）第 1 期指定管理を受託、平成 28 年～平成 31 年 3 月（3 年間）第 3 期指定管理を受託、（平成 30 年度指定管理料 5800 千円）

所感

昭和 30 年代半ばより新婚旅行のメッカと言われていたが、しだいに観光客も減り飫肥城内の観光が中心で、商店街まで足を運ぶ観光客はいなく空き店舗も増え急速に衰退してしまい、新たな魅力あるまちづくりに行政と市民が一体となり進めている。浜田市と似ている人口規模、石垣の残る城山、今年迎える開府 400 年、その後の魅力あるまちづくり、歴史資料館など参考となる視察でした。

熊本県球磨郡あさぎり町・人吉市

研修&交流会あさぎり町「リュウキンカの郷」・ 農家レストラン「ひまわり亭」
「空き家をリノベーションし、広域連携の法人化で自立に向けて稼ぐ、地域コミュニティビジネスの取組について」

地域の豊かな資源を活かし都市と農山村交流を図り、地域内の女性が主役となり、地元産の農産物を使った郷土料理を農家民宿や農家レストランで提供するとともに、農家独自で開発した農産加工品を地域へ訪れる旅行者へ販売し活力ある持続可能な地域づくりを目指して活動し全国で注目され多くの視察等受け入れている。食を軸に、次世代の農山農村を担う人材育成に奮闘中の 代表者 本田節氏より研修を受けた。

所感

日本棚田百選に選ばれた「松谷棚田」や日本遺産を活用した体験プログラムと滞在型のプランなどその地域にある自然・農産物・人により、家庭の食卓でしか味わえない郷土の家庭料理を見なおす「本物のおもてなし」に感動した。農家独自で農産物の加工品化に取組み積極的に販売など参考となる視察でした。